

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年9月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675400073号
法人名	医療法人一桜会
事業所名	さくらのお家
所在地	鹿児島県始良市蒲生町上久徳2511-2 (電話) 0995-52-1881
自己評価作成日	平成24年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらのお家は、伝統的な町並みの中の、静かで過ごしやすい場所にあります。利用者お一人おひとりの生活パターンを大切にしながら過ごす中で日常的に散歩やドライブに出かけています。また四季を感じて頂けるよう季節の食材を使用した食事の提供、花見・節分などの行事などの行事行っています。医療面では、母体のクリニックと日常的に連携を図っており、利用者様・ご家族が安心できる体制を整えています。地域との交流にも力を入れており、地域の行事への参加だけでなく事業所の行事にも来て頂いたり、また緊急時の協力体制も作り上げています。利用者の皆さんが「何を求めているか」をいつも念頭に置き、一つ一つの出来事に共感していくことを大切に、そして主体的に生活して頂けるよう、地域の皆様にも協力を頂きながら支援することを目指しています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年8月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に位置しており、母体医療機関と地域との信頼関係が十分構築され、母体であるクリニックが地元で根強いて来た歴史があり、ホームも地域住民との交流は設立以来盛んである。地域の自治会には設立当初から入会しており、地域の行事への参加はもちろん、ホームの行事も地域の方々に誘い参加してもらっている。言葉に出来ない利用者の気持ち、すなわちライフサポートワークの手法を取り入れ、本人の言動や行動の記録から本人の意向を感じ取り、職員とは毎月研修を重ね利用者の思いや意向を把握することを学んでいる。常に利用者の気持ちを考え、その人らしい今までの生活をできるだけ支援し、気づき・安全を念頭に寄り添いながらのケアに取り組んでいる。消防署との連携はとれ防災訓練に活かされているが、地域の消防団との連携が今後の課題である。利用者職員が自然体で結ばれており、質の高いサービス提供に日々努力しているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に地域密着を掲げており、地域との交流を大切にしていふことを職員全体で共有している。	理念を玄関に掲示し、パンフレットに掲載し地域にも提示している。ホーム独自の行動理念もあり、常に理念を職員間で、意識付け、利用者が地域で穏やかに、暮らしていける支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、清掃・花見・運動会等に参加している。また、事業所の行事へも参加を呼びかけている。	自治会には、設立当初から入会して、地域の方とは違和感なく交流ができています。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	近隣の方々が来訪し易い雰囲気作りに努め、また運営推進会議や小学校への訪問を通じ、認知症についての理解や支援の方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・民生委員・行政・地域の代表の方々に参加を頂いており、その中で出た意見を活かしている。	定期的な会議を開催している。現状報告や意見をもとにサービス向上に生かしている。地域の半鐘を非常時に使用する事を要望し、地域からも協力をもらっている。家族へは議事録を配布し会議内容の共有に努めている。	

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて相談し、連携を図っている。また、運営推進会議にも参加して頂いている。	行政担当者にも会議に参加してもらい、報告や相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はしていない。法人内の身体拘束委員会、研修に参加し、拘束しないケアを実践するよう取り組んでいる。	非拘束委員会があり、報告会で事例報告をしている。拘束は生命に関わる場合のみ医師の指示に従い、家族の同意を得て最小限の処置をしている。通常は拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待について学ぶ機会を持ち、ミーティング等で自分達の関わりを話し合うことで虐待防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加することで権利擁護について学び、管理者だけでなく全スタッフが理解して活用できる体制を目指している。		

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、また改定等ある際も重要な事項を十分に説明し、疑問点を残さず納得して同意を頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族からの意見は必ず記録し、スタッフが共有し反映できるようにしている。苦情に関しては役場への報告を行っている。また、行政等への相談窓口も分かり易い所へポスターの掲示をしている。	家族からの意見・要望は必ず記録している。在宅時医学総合管理が8月からスタートし、受診にも付き添い家族に身体状況を報告し、意見を聞き、ケアに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・申し送り等で意見を出せる機会を作っている。また伝言ノートを使用し、いつでも記入できるようにしている。	気付いた時に伝言ノートに記入し利用者の状況が詳細に書かれ、引き継ぐ職員は確認のサインもし、状況の共有をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主任会議や全体ミーティング等で職員の声を聴き、各自が働きやすい環境・条件の整備に努めている。		

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本人が希望するもの、また必要と思われる研修には参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良伊佐地区グループホーム連絡協議会に加入し、定期的な情報交換・勉強会等を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・主任が入居前に本人の自宅への訪問調査を行っている。また本人へも利用開始前に当ホームへ来訪して頂くことを勧めており、本人の思いや願いを把握し安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と話をする機会を作り、入居に際しての思い・要望等を把握し、安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の想いを考慮し、必要に応じてサービスを利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人に出来ることは任せて、本人が力を発揮できる場面を多く作ることで、お互いに支えあう関係を築いている。		

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時、本人の様子を伝えたりしながらご家族と職員が信頼関係を築き、共に本人を支えていく関係作りを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や知り合いの方の来訪がある時には、心地よく過ごして頂けるよう、また遠慮なく来訪して頂ける様な雰囲気作りに努めている。	利用者の要望で会いたい人には積極的に会ってもらっている。家族・知人には喜んで来訪してもらえる様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や関係を把握し、利用者同士がお互いに声を掛け合うような関係作りが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要におおじて連絡を取り、経過を確認しながら支援できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での本人の思いを大切にしている。困難な場合にはご家族とも話し合い、実現できるように努めている。	言葉に出来ない人の気持ちを理解できるように、研修を重ねている。ライフサポートワーク手法を取り入れ、言葉や行動の記録を取り、本人の意向を感じることが出来るよう日々努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に訪問し、生活暦や暮らし方、生活環境・サービス利用等、本人やご家族からの話により把握している。また本人の話、ご家族・知人の来訪時に話をする事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックをし、変化のあることは記録に残し、話し合いながらケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の・ご家族の思い・要望を聴き、日々の関わりの中で発する言葉や表情から本人の気持ちを汲み取り、関係者（ご家族・主治医・看護師・スタッフ等）と意見交換し課題を話し合い、介護計画の作成・モニタリングに活かしている。	利用者・家族の意向や要望を尊重し、担当者会議等で意見交換し関係者や職員全体でカンファレンス・モニタリングを行い介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>身体状況（食事・水分・排泄・医療面等）やその変化、特変があったこと等は個別に記録し職員間で共有し、また介護計画に活かしているが、本人の気持ちや言葉、スタッフの気づき・工夫・対応等をもう少し記録に残して日々の記録を根拠に介護計画を見直していけるようにしていきたい。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人・ご家族の要望に応じて可能な限り支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進委員や民生委員・地域住民の協力を頂いており、ボランティアの受け入れも行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的な受診の他にも、必要に応じて受診にお連れしている。また、週2回の医療連携体制により看護師の訪問を受けている。</p>	<p>かかりつけ医の定期受診・週2回の看護師訪問もあり、医療連携により密になり「かかりつけ医」との信頼関係も築かれている。他科受診の時には、同行支援も行っている。</p>	

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場の看護職員や医療連携の看護師と相談しながら、かかりつけ医と24時間の連携体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携関係者と十分に情報交換を行い、本人・ご家族に不安を抱かせないよう十分な説明を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書で指針を説明しており、必要に応じてご家族や関係者と話し合いを行い、十分に理解を頂き医療機関と連携をとりながら支援を行っている。	母体法人の看取りケア委員会に参加している。重要事項説明書で説明をし、利用者・家族とも十分な話し合いをし、理解・同意を得て書類を取り交わし、家族の協力も得ながら関係各者で最大限のケアに取り組み支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルに基づき、法人内研修や避難訓練時に消防や看護師の指導の下、緊急蘇生法や対応の方法を学んでいる。		

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応マニュアルを作成している。また、年に2回防災訓練・小規模訓練を行い、訓練の際には地域の方々に参加して頂くよう協力体制を築いている。	夜間・震災想定での訓練の際には地域との協力体制もできている。スプリンクラーや火災通報装置の設置もある。また飲料水などの備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格に配慮した声かけ・対応を行い、プライバシーを損なわないよう努めている。	職員は伝言ノート等で情報の共有をし、人格を尊重したケアに配慮している。心配りが足りないと感じられる職員の言動には、お互い注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中での選択する場面では、必ず一人ひとりに声をかけ決定してもらうように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一定の流れで声をかけていくが、その中で本人の希望や状態を優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人ひとりが自分らしい身だしなみが出来る様、支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士作成の献立に基づき色合い等考慮し盛り付けている。また、食事の支度・片付けの中で一緒に出来ることは、できるだけして頂いている。	食事の下ごしらえや片付け等、出来る範囲の手伝いをもらう事で利用者の自信につながるよう配慮している。利用者の希望に合わせた献立を取り入れる事もあり、気分転換に配慮し、ソーマン流し等の外食も取り入れ、食事を楽しんでいる。	

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量w記録しており、不足が見られる時には小まめに摂取して頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベルにより声かけや見守り、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に応じて見守り、ポータブルトイレの使用等して頂いているが、できるだけトイレでの排泄をして頂けるよう努めている。自立の困難な方もパッド等を使用しながら排泄リズムを把握し、トイレでの排泄を援助している。	排泄チェックに気配りし、自立排尿につながるよう支援している。利用者のなかには、おむつの必要がなくなった方もいる。細かなチェックで職員間で工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量・排泄パターンを把握し、体操等も取り入れて便秘予防に努めている。また、状態に応じて医師の指示により緩下剤を服用してもらっている。		

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望や必要に応じて入浴して頂けるよう支援している。	冬は入浴剤を使用するなどして入浴を楽しんでもらっている。異性介助には配慮しているが、現在は特に抵抗なく支援させてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、希望に応じていつでも休息を取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方される旅にその内容・変更点をスタッフ全員で把握し、症状の変化等について医師・看護師と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や製作・書道・折り紙・色塗り等、一人ひとりが得意な事や好きな事を日常的に発揮できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ等、その日の状況や希望に応じて外出している。普段行けないような場所もご家族と相談し、可能であれば出かけている。	季節によって楽しめる場所を選択し頻繁に外出計画をたて、利用者に喜んでもらっている。希望があれば、見物がてら買い物にも連れて行く事もある。預かり小口現金は、金銭出納記録をして、領収書も添付し家族に確認をもらっている。	

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事業所でお金を預かっているが、本人から買い物等の要望がある際には自分で支払いができるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望に応じて電話をかけたり、手紙を出せるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁画や絵画、花を飾って季節感を取り入れている。また、要望があれば家具の配置等の変更も行っている。</p>	<p>共有空間のリビングは明るく、開放的で掃除が行き届き清潔感がある。壁には、利用者と職員がいっしょに作成した作品が飾られ、創作過程が楽しく想像でき、季節感のあるものとなっている。感染症予防にも配慮し、特に冬場は湿度管理に工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング・廊下にソファを配置しており、そこで一人でゆっくりしたり利用者同士でくつろげるようにしている。</p>		

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れたものを優先しながら、必要なものや要望があれば家族とも相談しながら居心地良く過ごせる様に支援している。</p>	<p>全ての家具は本人の使い慣れた物の持込み、利用者が居心地よく暮らせるように支援している。また寝具もチェックリストで管理している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>状況に応じて手すりを付けたり、家具の配置を変えるなど職員の手を借りずに安全に過ごせる様工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームさくらのお家 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない